

令和 5 年度
教職課程
自己点検・評価報告書

令和 5 年 7 月

神戸常盤大学

神戸常盤大学 教職課程認定学部・学科（免許校種・免許教科）一覧

・教育学部 こども教育学科

幼稚園教諭一種免許状

小学校教諭一種免許状

中学校教諭一種免許状（理科）

・保健科学部 看護学科

養護教諭一種免許状

大学としての全体評価

本報告書は、本学の教職課程における取り組みとその成果を概観するものである。

本学は、教員養成における熱意を持ち、具体的には、教育学部こども教育学科においては幼稚園教諭、小学校および中学校教諭（理科）の育成に、保健科学部看護学科においては養護教諭の養成に尽力している。多様な教育課題に対して、高度な専門知識を兼ね備えた人材を育成し、それらの課題解決への取り組みを目指している。

教育実習の事前指導では、教職支援センターの室長が指導者として、実際の教育現場に即した貴重な指導を提供している。また、附属幼稚園および神戸市内に設けられた三箇所の子育て総合支援施設により、学生たちは子どもたちとの直接的な関わりを通じて、実践的な力を培う環境に恵まれている。

学生一人ひとりの深い理解に努め、面談、適性検査、学力検査を通じて、それぞれの学生の適性とニーズを把握。これらの情報は、学部教員、教職支援センター、キャリア支援課と共有され、学生に対して適切な進路指導や支援が提供されている。

また、アクティブ・ラーニングの推進にも力を入れており、学生は入学時からチームビルディングやコミュニケーション能力の向上を目指す科目を受講している。さらに、学内外の実習施設を活用し、地域の子どもたちと直接関わり、教育活動を通じた実践経験を積み上げると共に、保護者との対話も経験する機会が豊富に提供されている。

本学の教職課程は、教育の質の向上と学生一人ひとりの個別の成長を重視する取り組みを基盤としており、今後もこの方針を維持しながら、学生たちがより充実した学びを実現できるよう、一層の発展を目指していく所存である。

神戸常盤大学

学長 濱田道夫

目次

I	教職課程の現況及び特色	1
II	基準領域ごとの教職課程自己点検・評価	
	基準領域1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な 取り組み	2
	基準領域2 学生の確保・育成・キャリア支援	4
	基準領域3 適切な教職課程カリキュラム	7
III	総合評価（全体を通じた自己評価）	11
IV	「教職課程自己点検・評価報告書」作成プロセス	12
V	現況基礎データ一覧	13

I 教職課程の現況及び特色

I 現況

(1) 大学名：神戸常盤大学

教育学部・保健科学部

(2) 所在地：兵庫県神戸市長田区大谷町 2-6-2

(3) 学生数及び教員数

(令和5年5月1日現在)

<教育学部>

学生数： 教職課程履修 77 名／学部全体 334 名(教員養成コース)

教員数： 教職課程科目担当（教職・教科とも）14 名／学部全体 19 名

<保健科学部看護学科>

学生数： 教職課程履修 8 名／学部全体 363 名（看護学科）

教員数： 教職課程科目担当（教職・教科とも）13 名／学部全体 34 名

(看護学科)

2 特色

本学の教員養成は、教育学部こども教育学科における幼稚園教諭及び小学校教諭・中学校教諭(理科)の養成と、保健科学部看護学科における養護教諭の養成である。

大学としての教員養成の目標は、人々が社会の中で意欲をもって生活することや、社会のよりよい在り方について、教育に携わる立場から真剣に取り組む人材を育成することである。「教育」は人との関わりの中で展開するものであり、教育に携わる人材育成の基盤として「豊かな人間性」を置いている。関連する教育現場で求められる高度な専門性の育成と同時に、人と自然を愛し、「いのち」を尊重し育む心を持ち、一人ひとりに寄り添い、「生きる」を支える豊かな人間性をもった教育者の養成を目指している。また、学生個々が社会を構成する一員となることを踏まえ、社会の中で一人の人間として豊かに生きていくことができ、社会に生じるさまざまな教育的課題について、高い専門性から解決に取り組むことのできる人材を育成する。

II 基準領域ごとの教職課程自己点検・評価

基準領域Ⅰ 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み

基準項目Ⅰ－Ⅰ 教職課程教育の目的・目標の共有

〔現状〕

1. 教職課程の目的・目標を「アドミッションポリシー」「カリキュラムポリシー」「ディプロマポリシー」等を踏まえて設定し、学生に周知している。
2. 育成を目指す教師像の実現に向けて、関係教職員が教育課程の目的・目標を共有し教職課程教育を計画的に実施している。
3. 教職課程教育を通して育もうとしている学修成果がシラバスの評価規準(ルーブリック)に示されるなどの可視化を図っている。

〔優れた取組〕

2020年度の文部科学省の最新調査(2022年11月発表)では、すべての科目のシラバスでルーブリックにより明示しているのは、6%の大学しかない。本学では、「質」を問うため、シラバスの評価規準を達成目標へと変化させ、教育内容の「質」を問うて、改善している。

〔改善の方向性・課題〕

教育のデジタル化が進むなかで自動的に集積・蓄積されたデータのマイニングから、その後の改善のための「兆し」を発見し、教学上の課題解決に至る手法「データ駆動型教学マネジメント改革」を実行中である。

<根拠となる資料・データ等>

- ・ 資料Ⅰ－Ⅰ－Ⅰ：学生便覧、令和5年、pp.82—88
- ・ 資料Ⅰ－Ⅰ－Ⅱ：文部科学省への設置認定書類様式第7号ウ
- ・ 資料Ⅰ－Ⅰ－Ⅲ：教職課程科目シラバス

基準項目 1－2 教職課程に関する組織的工夫

〔現状〕

1. 教職課程認定基準を踏まえた教員を配置し、研究者教員と実務家教員及び事務職員との協働体制を構築している。
2. 教職課程の運営に関して全学組織(教職支援センター)と学部の教職課程担当者として適切な役割分担を図っている。
3. 教職課程教育を行う上での施設・設備が整備され、電子黒板を用いた教育指導に対応している。
4. 教職課程の質的向上のために、授業評価アンケートの活用を始め、FD(授業改善等)やSD(教職員の能力開発)の取り組みを展開している。
5. 教員養成の状況について情報公開を行っている。
6. 教職支援センターと学部教職課程とが連携し、教職課程の在り方により良い改善を図ることを目的とした自己点検・評価を行い、教職課程の在り方を見直すことが組織的に機能している。

〔優れた取組〕

教職課程の授業(教育実習指導)に教職支援センター室長が指導者として参加し、教育現場の実態に合った指導を行っている。

〔改善の方向性・課題〕

教職課程の在り方に関して自己点検・評価を行い、教職支援センターと学部との協働体制を一新した。現在、組織的に機能しており、今後もさらに改善の方向性を探りながら進めていく。

<根拠となる資料・データ等>

- ・ 資料 1－2－1：文部科学省への設置認定書類様式第 3 号
- ・ 資料 1－2－2：義務教育コースの紹介チラシ(オープンキャンパス配布物)

基準領域 2 学生の確保・育成・キャリア支援

基準項目 2-1 教職を担うべき適切な学生の確保・育成

〔現状〕

1. 教職課程で学ぶにふさわしい学生像を「アドミッションポリシー」等を踏まえて、設定し、学生の募集や選考、入学前教育等を実施している。
2. 学内での学びに加えて、学外での実践的な活動を通して、教員として役立つ実践力を身につける多様な実習の場を確保している。
3. 履修カルテを活用するなど、学生の適性や資質に応じた教職指導が行われている。

〔優れた取組〕

本学の附属幼稚園が1カ所、さらに本学が運営する「子育て総合支援施設」が学外に3カ所あり、地域の子どもたちとふれあい、現場での実践力を磨く実習体制を構築している。保健科学部看護学科における養護教諭養成課程では、近年増加傾向にある特別支援学校のみならず地域校における医療的ケア児や発達障害児の養護に対応すべく、4週間の教職実習の内1週間を特別支援学校にて行っている。

〔改善の方向性・課題〕

現在行っている入学前教育と在学中の教育課程、さらに卒業後の教育を一体化するリエゾンモデルの構築を目指す。教職支援センターと学部が連携して進めるために、協働体制のさらなる充実が今後の課題である。

<根拠となる資料・データ等>

- ・ 資料 2-1-1：学生便覧、令和5年、p.82
- ・ 資料 2-1-2：ホームページ

2年生の養護実習Ⅰの実習計画

- ・ 資料 2-1-3：履修カルテ

履修カルテ（養護教諭要請課程）

基準項目 2－2 教職へのキャリア支援

〔現状〕

1. 学生のニーズや適性の把握に基づいた適切なキャリア支援を組織的に行っている。
2. 教職に就くための各種情報を書籍や掲示物を用いて適切に提供している。
3. キャリア支援を充実させる観点から、教職に就いている卒業生や地域の多様な人材等との連携を図っている。

〔優れた取組〕

各学年において学生理解に努めている。面談を実施し、適性検査・学力検査等を通して個々の学生の適性とニーズを適切に把握している。そこから得た情報を、学部教員・教職支援センター職員・キャリア支援課課員と共有し、適切な進路指導・支援を行っている。養護教諭養成課程においては、常勤講師から公務員試験に合格した卒業生と座談会を行っている。また、こども教育学科と看護学科両科の必修科目「特別支援教育」の中で、障害のある子どもたちへの教育の目標をより明確に把握するために、現在長田区で自立／自律生活を営んでいる様々な障害のある方々を、大学の地域貢献活動の中で協力の得られた障害福祉サービス事業所を通して、ゲストスピーカーとして依頼している。

〔改善の方向性・課題〕

学外の諸機関との連携をさらに深め、教育課程を充実させるための人材を、様々な授業の中でゲストスピーカーとして活用する。

<根拠となる資料・データ等>

- ・ 資料 2－2－1：1年生の面談時のメモと面談前に実施したアンケート
- ・ 資料 2－2－2：支援センター内の書架・掲示物の写真など
- ・ データ：就職委員会での情報共有資料、キャリアサポーター懇談会の
タイムスケジュールと発表者一覧
就職ガイダンス日程表（3・4年生）

・ 資料 2－2－3：養護教諭合格者座談会資料

こども教育学科・看護学科「特別支援教育」における

ゲストスピーカー依頼書

基準領域3 適切な教職課程カリキュラム

基準項目 3-1 教職課程カリキュラムの編成・実施

〔現状〕

1. 全ての教育課程においてキャップ制を踏まえたうえで卒業までに修得すべき単位を有効活用して、建学の精神を具現化する特色ある教職課程教育を行っている。
2. コアカリキュラムに対応する教職課程カリキュラムを編成している。
3. ICT 機器を活用し、情報活用能力を育てる教育への対応が可能となるように教科指導法科目を中心に適切な指導が行われている。
4. アクティブ・ラーニングやグループワークを促す工夫により、課題発見や課題解決の力量を育成している。
5. シラバスにおいて各教科の学習内容や評価方法を明確に示している。
6. 教育実習を行う上で必要な履修条件を設定し、実りある教育実習になるように指導している。
7. 履修カルテを用いて、学生の学修状況に応じたきめ細やかな教職指導を行っており、その蓄積は教職実践演習の指導に生かしている。

〔優れた取組〕

初年次からチームビルディング・コミュニケーション能力の育成を目的とするアクティブ・ラーニングを全学部共通科目として設定している。

〔改善の方向性・課題〕

学びの足跡を学生の自己評価・他者評価・教師評価といった複眼的な評価によってしっかりと把握するためのポートフォリオ評価のさらなる充実。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料3-1-1：カリキュラムマップ

- ・ 資料 3－1－2：コアカリ対応表・履修細則別表
- ・ データ ：授業風景の写真等

基準項目 3-2 実践的指導力育成と地域との連携

〔現状〕

1. 取得する教員免許の特性に応じた実践的指導力を育成する機会を設定している。
2. 様々な体験活動(ボランティア・インターンシップ・介護等体験)とその振り返りの場を設定している。
3. 地域の子どもの実態や学校における教育実践の最新の事情について学生が理解し、それを実践する場を用意している。
4. 地元の教育委員会と組織的に連携協力体制の構築を図っている。

〔優れた取組〕

本学が運営している実習施設が学内外に4カ所あり、地域の子どもの実態を知り、教育活動を行い、さらには、保護者対応についても実践を通して理解できる機会を設定している。養護教諭養成課程においても、神戸市スクールサポーター制度を積極的に利用し、特別支援教室でのサポートなどを経験させている。また、近隣の特別支援学校での約10年にわたる養護実習Ⅰを通して、神戸大学附属小・中・特別支援学校での健診ボランティアも希望者に受けさせている。

〔改善の方向性・課題〕

1年次から系統的に実践的指導力を高めることのできる効果的な実習プログラムとカリキュラムの構築を目指す。学部教員と教職支援センターの協働体制のさらなる充実が課題である。

＜根拠となる資料・データ等＞

- ・ 資料3-2-1：基礎研究Ⅰ・Ⅱのシラバス
- ・ 資料3-2-2：KIT実習の計画表

神戸市スクールサポーター利用者名簿

神戸大学附属小・中・特別支援学校健診ボランティア利用者名簿

・データ : K I Tでの実習風景

Ⅲ. 総合評価（全体を通じた自己評価）

豊かな人間性は、子どもが社会の一員として規範を守り、自らを律しながらも豊かに生き活きと生きていく人として育つ上で、教育に携わる人材の基本的な要件であると考えている。また、高い倫理観については、教員という立場で子どもに関わる人材であるがゆえ、より一層自らの倫理観を高く維持することに自覚的でなければならないと考える。

子どもの心身の発達を支えるための専門知識と技能の修得は、教育の基本的事項である、4年間の養成課程で効果的に専門性を高めるための科目配置や、「地域と歩みを共にする大学」としての特色を活かした教育実践力の強化を目指している。

理論と実践の統合については、教員として、実践の中で理論に立ち返り検討する態度や、実践から理論を省みる態度をもつことにより、自らの教育実践をよりよい形で展開していくことのできる人材となると考えている。特に、教育実践力の育成、及び理論と実践の統合については、平成29（2017）年度「私立大学 研究ブランディング事業」に採択された事業のセンターとなる子育て総合支援施設「KIT」での保護者も含めた交流活動や、キャンパス内にある附属幼稚園での実践、神戸市教育委員会との協定によるスクールサポーターとしての小学校現場への配属等、教育現場での経験の場を1年次から積極的に導入することにより強化、充実を図っている。

社会が変動する中で、今、目の前にある課題への対応のみならず、新たな課題を掌握・予測し、対応することが求められることから、与えられた課題に取り組むのみならず、自ら積極的に課題を発見し改善策を検討・実践し振り返ることにより、保育・教育の質を高め、併せて自己研鑽にもつながるものと考え

Ⅳ 「教職課程自己点検・評価報告書」作成プロセス

1. 学部教員と教職支援センターにより原案を作成。
2. 教学課課員による確認作業
3. 学部教員による仕上げ作業
4. 学長コメント執筆
5. 完成

V 現況基礎データ一覧①

令和5年5月1日現在

法人名 学校法人玉田学園					
大学・学部名 神戸常盤大学 教育学部					
学科・コース名（必要な場合） こども教育学科					
1 卒業者数、教員免許状取得者数、教員就職者数等					
① 前年度卒業者数					84
② ①のうち、就職者数 (企業、公務員等を含む)					84
③ ①のうち、教員免許状取得者の実数 (複数免許状取得者も 1 と数える)					小 29 幼 51 ダブル 2 実数 78
④ ②のうち、教職に就いた者の数 (正規採用＋臨時的任用の合計数)					18
④のうち、正規採用者数					14
④のうち、臨時的任用者数					4
2 教員組織					
	教授	准教授	講師	助教	その他（助手）
教員数	8	4	7	0	1
相談員・支援員など専門職員数 0					

V 現況基礎データ一覧②

令和5年5月1日現在

法人名 学校法人玉田学園					
大学・学部名 神戸常盤大学 保健科学部					
学科・コース名（必要な場合） 看護学科					
1 卒業者数、教員免許状取得者数、教員就職者数等					
① 前年度卒業者数				78	
② ①のうち、就職者数 (企業、公務員等を含む)				74	
③ ①のうち、教員免許状取得者の実数 (複数免許状取得者も1と数える)				養 8	
④ ②のうち、教職に就いた者の数 (正規採用＋臨時的任用の合計数)				1	
④のうち、正規採用者数				—	
④のうち、臨時的任用者数				1	
2 教員組織					
	教授	准教授	講師	助教	その他（助手）
教員数	14	5	12	3	
相談員・支援員など専門職員数 0					